

BO-SO海ごみゼロにし隊 (CFB・海と日本2022)

CHANGE FOR THE BLUE 千葉県実行委員会

<アイデア創出と実行の2刀流！>

千葉県は三方を海に囲まれているにもかかわらず、県民のおよそ半数は海洋ごみ削減に向けたアクションを取ったことがない課題がある。それを打開するため、3か月間にわたり「異業種連携アイデアソン」を開催し、ごみ拾いに参加しやすい仕組み作りを推進するため県内企業と連携して活動した。またごみ拾いの裾野を広げることを目的に幕張に「プロギングステーション」を設置し、身体を動かしながら健康にごみを拾う新たなムーブメントを県民に植え付けた。他には、海洋プラごみからサングラスを作る「アップサイクル」企画や、県内の教員と中学生を対象に「海洋ごみ講座」を実施するなど、県民の行動変容を促すべく包括的なプログラムを主催してきた。

2022年度 実施状況について

■ 海洋ごみ削減モデル事業をつくるアイデアソン
 <課題・背景> 異業種が連携し、実現性・求心力・発信力・独自性を兼ね備えた 海洋ごみ削減につながる新たなモデルの構築を目指す。

■ プロギングステーション
 <課題・背景> ごみ拾いに参加することのハードルを克服できないか。

■ 海洋ごみ講座
 <課題・背景> 海洋ごみ問題は若年層における認知度が低い。また教員が学生に教えるノウハウが行き届いてない。

■ 海洋ごみアップサイクル&プロダクト開発
 <課題・背景> 海洋ごみの中でも特に厄介なプラごみへの理解を深め、ごみを減らしていく。



・概要：異業種連携アイデアソンを5回実施
 ・目的：海洋ごみ削減につながるモデルの構築
 ・場所：チバテレ本社Aスタジオ
 ・連携先：銚子電鉄、石井食品、フォースほか
 ・決定案：県民のおよそ半数は海洋ごみ削減に向けたアクションを取ったことがないという課題の解決に向け、多くの人を海洋ごみ削減のアクションに巻き込むため、千葉県内発の海洋ゴミ拾いクラブチーム「ちばうみびと」を発足する。様々なスポーツ競技を横断して活動し、県内のプロアマスポーツチームとの協体制で、「する」「見る」「支える」といった様々な観点からスポーツにかかわる人が、一緒にゴミ拾いできるコミュニティを創造していく。

・概要：ごみ拾いの拠点となるステーション設置
 ・目的：ごみ拾いの裾野を広げる
 ・場所：イオンモール幕張新都心
 ・連携先：LIGHT SHIP/スポーツーツリテ、湯楽の里
 ・効果：9日間のイベント期間で20kgのごみを回収。参加者特典にイオンや湯楽の里のクーポンを用意することで、より多くの人に参加してもらえる仕組みを構築できた。アンケートでは9割の参加者から「環境への意識が高まった」「継続したい」といった声があげられるなど、海洋ごみ削減への意識変容の効果があつた。また、94%の参加者から常設化を望む声もあがつたため、2023年度は常設化を目指して各所調整を行っていき、習慣となるよう行動変容を促していく。

・概要：教員と中学生を対象に海洋ごみ講座
 ・目的：若年層における海洋ごみ問題の認知度向上
 ・場所：勝浦中学校、いすみ市教育委員会
 ・連携先：NPO法人Wake Up Japan
 ・効果：勝浦中学校1年生およそ100名にモデル授業を実施。その後、2・3年生にも教員による授業を実施してもらった。アンケートでは、ほぼ全員の参加者から「海洋ごみ問題」についてこれまで以上に興味を持ったという回答が得られた。またいすみ市教育委員会協力のもと教員向け授業も実施した。来年度は意識だけでなく、若年層の行動変容を促せるよう施策に取り組む。

・概要：海洋プラごみからサングラスを制作・販売・寄付
 ・目的：海洋プラごみの有効活用、プラごみ問題の認知度向上
 ・場所：ハビネス全国86店舗、幕張の浜
 ・連携先：ハビネスアンドディ、浦安三番瀬を大切にする会
 ・効果：海洋プラごみをサングラスにアップサイクルし販売する。サングラス製作に必要なプラスチックは、県内の海岸を活動拠点とする清掃団体と連携し、ペットボトルを中心としたプラスチックごみを収集して確保している。12月に店舗での販売を開始した。

その他：千葉工業大学連携調査企画（実施中）、スポGOMI甲子園ほか

メディア露出



9/20 「モーニングこんぱす」
アイデアソン

9/21 「モーニングこんぱす」・9/18千葉日報朝刊紙面
プロギング

8/4 「モーニングこんぱす」
海洋ごみ講座

5/31 「モーニングこんぱす」
海洋ごみアップサイクル「サングラス」

その他：テレビ取材14本 テレビ告知CM200本 WEB30本 新聞6紙 掲載※3/31時点

2022年度の課題とこれからの展望

2022年度は海洋ごみを減らすための仕組みづくりを目標に様々なプログラムを主催および視察してきたが、10代～20代の「若年層」の参加が少ない場面が多々あった。これからは既存の取り組みを発展させることに加えて、「学生アイデアソンプロジェクト」をはじめ、若年層の参加に焦点を当て、各施策に積極的に巻き込むことで、海洋ごみ削減に向けた若年層における行動変容を促していきたい。